

## 2月の銅マーケットレポート及び3月の見通し(下)

## 橋本アルミ(株) 橋本健一郎氏



## 予想レンジ

LMEセツル	4400-4800ドル	●	変わらず
建値	530-610円	●	変わらず
為替	111~117円 (1か月間TTM)	↑	円高

※平成28年3月18日付紙面で掲載させていただきました記事の続きとなっております。

## 【見通し】

・自動車は生産が-5.8%。2月の国内販売台数が前年比-4.6%

生産が2カ月連続マイナス、販売が4カ月振りマイナス。

生産が連続減少となった。販売の方が一転4カ月ぶりマイナスに。

販売のマイナスが続くかどうか今後の動向に注目

・住宅着工の動向については、

全体として平成26年4月の消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響からの持ち直しが続いてきたものの、足下では横ばいの動きとなっている。

引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

・伸銅品 11カ月連続マイナスの前年比-6.4%。

需要の多い銅条が、9カ月連続マイナス。黄銅棒が3カ月連続プラス、輸出も前月に続き減少が続き10カ月連続二けたマイナスの-21.2パーセント。

黄銅棒が3カ月連続でプラスに転じており今後の回復が望まれる。

・電線 輸出が7カ月連続二桁減少の-74.7%。内需も減少の-5.4%

・銅輸出は生産減少による国内玉の需要減から地金は増加、スクラップ共に内需の発生難を受けて減少した。

・銅輸入は、生産減少による国内玉の需要減から地金、スクラップ共に内需の低迷から減少した。

## 【スクラップ需給予想】

流通在庫は、銅建値が60万から一時55万まで下落したことから塩漬け玉が多少あるが、

ここ最近ほとんどの分野で生産販の現象が続いており発生難の状況が続いている。

生産が3か月連続上昇の黄銅棒に必要な真鍮粉は需給がひっ迫しているものの、その他は安定が続くのではないかと。

## 【価格・為替予想】

今月は、G20後の中国の景気対策と原油の生産調整問題に左右される。

G20後の中国の景気対策に関しては、上海株がデッドラインと言われた3500を大きく下回る2700付近で推移してるものの、G20前に追加の金融緩和策や財政出動に言及し、財政・金融政策を総動員して景気を支えする姿勢を強調したこと また実際に29日、追加金融緩和に踏み切ると発表、預金準備率を0.5%引き下げたことから今後の追加的な対策に期待される。

原油減産問題に関しては、ロシアのノバク・エネルギー相が、大多数の産油国が増産凍結で合意したと述べた事や産油国は原油の供給を安定させる方法で今月中に合意するとも話したことから原油が一時34.76ドルまで上昇し、期近物として1月28日以来ほぼ1カ月ぶりの高値を付けたことから今後の供給の安定に期待される。

それらを踏まえた3月の銅価格は、中国が新たな景気対策などを行い、原油の減産合意が行われた場合、2月高値の一段高4800ドルを予測。いずれかの場合は4500ドル。

下値はいずれの条件も達成できなかった場合2月もう一段安値の4400ドル。

為替は、日本が先のG20で為替介入に関して、自制を求めるように釘を刺された事や、英のユーロ離脱懸念の再燃が今月のポイントとなるだろう

それらを踏まえ予測は

上値は日本が何らかの為替対策を結果的に一切行わず、英国のユーロ懸念が再燃した場合安全資産の円買いから111円台を予測。下値は、日本がさらなるマイナス金利策や金融緩和策を行い、英国のユーロ離脱懸念が後退した場合117円を予測。

銅建値に関しては530-610円程度と予測している。

住友金属鉱山電気亜鉛  
蒸留亜鉛・原料指定問屋

亜鉛ドロス・滓買入

## 大阪亜鉛工業株式会社

取締役社長 林 昭宏

本社・工場 大阪市西淀川区佃4丁目14-3  
〒555-0001 TEL 06-6471-2531~5  
東京営業所 東京都墨田区立花2丁目4-5  
〒131-0043 TEL 03-3618-2351~2